

ECCコンピュータ専門学校 学校関係者評価委員会報告書

学校法人山口学園 ECCコンピュータ専門学校 学校関係者評価委員会は平成30年9月7日に「平成29年度自己評価報告書」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので報告いたします。

平成30年9月30日
学校法人 山口学園
ECCコンピュータ専門学校
学校関係者評価委員会

1.学校関係者評価委員（「ECCコンピュータ専門学校 学校評価実施規程」選出区分）

【関連業界等関係者 「同第12条第1項（1）」】

委員長

伊藤 裕一 氏 （インフォームシステム株式会社 取締役 CTO）

野間 伸治 氏 （株式会社アコードセブン 代表取締役）

郡山 太志 氏 （キャノンITソリューションズ株式会社）

【卒業生 「同第12条第1項（2）」】

谷垣 允哉 氏 （ITエンジニア：カコムス株式会社）

【保護者または地域関係者 「同第12条第1項（3）」】

猿木 唯資 氏 （済美福祉センター連合運営委員会 会長）

【高等学校関係者 「同第12条第1項（4）」】

貴治 康夫 氏 （立命館高等学校 教員）

【その他校長が必要と認める者 「同第12条第1項（4）」】

土江 彩奈 氏

【同席者】

宇佐見 眞也 （ECCコンピュータ専門学校 学校長）

納谷 新治 （ECCコンピュータ専門学校 副校長・教務課責任者）

伊澤 幸徳 （ECCコンピュータ専門学校 教務課副責任者）

池田 宗人 （ECCコンピュータ専門学校 進路指導課責任者）

下西 智也 （ECCコンピュータ専門学校 入試課責任者）

河西 雄輔 （ECCコンピュータ専門学校 広報課）

三木 武志 （山口学園 自己点検評価室）

今年から自己評価報告書のフォーマットを一新。変更の背景：2019年度から第3者評価を受けることにしています。そのためには自己評価報告書をよりわかりやすいものにする必要があります、この度フォーマットを一新しました（国際、ア専ともに）今までとはフォーマットが違いますが、それぞれの項目について担当者から報告させていただきます。ご質問等があればどんなことでもご質問願います。

■基準1（宇佐見より）

基準1～10の小項目すべてを議論するのは時間も限りがあるので難しい。

ですので「ウの課題があるものに関して」この場でご説明させて頂きたいと思います。

<本項目の課題3点>

- 学生が学校の教育理念を理解していない
- 常に業界のトレンドを察知していく必要がある
- 人間力の育成にはまだまだできていないと感じている

今回は一通り手元の資料に目を通して頂いていると思いますので、参加者1名ずつ上記課題に対してご意見を教えてください（伊藤様）

Q、入学試験の際に学校理念の理解度チェックができませんか？（貴治様）

A、入学直後にアンケートで確認を取っているがなかなか理解されていない状況（宇佐見）

Q、教育理念は会社でいうところの経営理念と同じ。我々会社でも同じだが、入社時に経営理念を伝えても、数か月経つと忘れてしまう社員が目立つ。よって定期的に理念を伝えている。また、人間力育成については、世代によって育成方法が異なるかと思うので、個人個人にコミュニケーションを図りながら進めていくことが大事だと思います（野間様）

A、貴重なご意見ありがとうございます（宇佐見）

A、レガシーな知識が必要（郡山様）

Q、仕事では知らない人と調整する機会が多数ある。その空間を学校で作るべく色々な方とチーム制作。チーム制作は15週間ずっと走っています。ゲームもほぼ全学年で制作している。ゲーム分野が最もチーム制作が進んでいる。学年をまたいだ制作も実施している。最近やっているのは少人数のチーム制作。IT分野も実施しているが、メインで実施しているのは3年、4年制の学生。あと、ITの場合人数が多いためか、さぼる学生もちらほら。一言で言えばゲーム分野よりもチーム制作の精度が低い（納谷）

Q、分野をまたいだチーム制作を実施していますか？（土江様）

A、フェーズが異なるのでなかなか融合できない。トライはしているがインフラが合致していない。（納谷）

A、3校あるので、コンピュータだけではなく学校をまたいだ授業ができたらいいですね（土江様）

A、土絵さんのおっしゃるとおりです。貴重なご意見ありがとうございます（宇佐見）

Q、教育の理念を理解することが難しいことはよく理解できる。在学中に理解してもらうことが特に難しい（猿木様）

A、伝える機会を増やしているので以前に比べると徐々に伝わっているかと思うのですが、まだまだだと感じています（宇佐見）

Q、アナログな方法だが各教室に学校理念を貼るのはどうでしょう？見える化など（伊藤様）

A、私の前の学校では各階会談を昇ったところにモニターがあって教育理念を掲示していた（貴治様）

Q、「15週でチーム制作をやってください」というカリキュラムは作ることが出来るが、各先生方は人間力を高めるためのチーム制作をどのように捉えているのか？（伊藤様）

A、チーム制作を何回も実施していくので、1回しか実施しないとすれば改善もできないが、複数回実施することで改善ができるようにしている（徳田）

■基準2（宇佐見より）

<本項目の課題3点>

- 非常勤講師に対する学校理念、運営方針の理解が徹底できていない
- 教員の評価水準の明確化を進めたい
- 情報システム化の取り組みについては実務レベルで使いにくいシステムがある

Q、非常勤講師は今何名いらっしゃいますか？（貴治様）

A、非常勤：55名です（宇佐見）

A、現在問題になっていることが「教員間における授業レベルの差異」（納谷）

A、非常勤講師によってばらつきがあるのはよく理解できる。難しい問題ですね（貴治様）

A、これを解決する方法は人間力（コミュニケーション能力）の問題ですよ（伊藤様）

A、後ほど本項の対策についてお伝えさせて頂くのでまたその際にご意見を頂けると幸いです（納谷）

Q、各講師に目標を書いてもらう項目は存在しますか？色々な意見が出てくるので大変だとは思いますが（貴治様）

A、貴重なご意見ありがとうございます（宇佐見）

Q、学生と教員間のやりとりができるよう目安箱の設置はいかがでしょうか？（貴治様）

A、HPでアクセスできるシステムはあるがなかなか学生が使っていない。さらにアナログな方が学生は聞きやすいのかもしれませんが（納谷）

Q、非常勤の先生方は全般共有ができていくのですか？（土江様）

A、新人の先生が特にですね（宇佐見）

■基準3 納谷より

私からは教務全般についてお答えいたします。

カリキュラムの科目の構成自体はさほど問題ではないと思っている。

授業の質のばらつきがあることが問題かと考えている。

<課題>

- カリキュラム作成が専任まかせになっている
- キャリア教育のためには現在の科目のみでは不十分
- 成績評価の明確化がまだ出来ておりません（2019年度からシラバスの公開を学園全体で進める予定）
- 授業評価のフィードバックが教員まかせになっている
- 学生数増加に伴い教員数確保が必要だが慢性的に教員が足りていない
- 教員の資質向上の取り組みに関しては、授業を直接改善する取り組みが少ないのが課題

Q、公開授業を検討しているとあるが、一般公開も実施する予定ですか？（貴治様）

A、学内のみで実施予定です。まずは教員間でお互い見あう段階かと考えている（納谷）

Q、教員のアンケート結果は徐々に改善されているのですか？（郡山様）

A、良い質問ですね。あまり良くはなっていません。最終手段は分野自体を変更することかと考えている（納谷）

Q、講師を採用する際は実際に授業を見てから行っているのですか？（谷垣様）

A、昔はその方法もとっていたが、今は慢性的な人手不足なのでそうも言ってもらえない現状です（納谷）

Q、学生からの評価が高い＝社会のニーズに合っているとは限らないので、学生、教員（同僚）両方のアンケートがあった方がいいのでは？（土江様）

A、伝え方について教員間で学び合ってもらいたいと思っている（納谷）

Q、学内の教育成果発表会を最近始められたと思うのですが、それに関しての方向性は変わらずですか？（伊藤様）

A、はい。変わらず続けていきます。先日も宿泊研修を行いその場で発表を行ってもらった。ただ、数名に関しては内容がよくなかったので、改善をしてもらおうと考えています（宇佐見）

■基準4 池田、納谷より

<課題>

組織だって卒業生との状況を把握でききれていない

基本情報合格率向上に向けて改善が必要

Q、企業側から卒業生情報を聞くことは実施しているのか？（野間様）

A、現状は卒業生本人から聞くだけです（池田）

Q、卒業生校友会で参加者増加に向けて何らかの取り組みはなされていますか？（郡山様）

A、前はDMを一斉発送したが満足いく参加者数ではなかった。今回は広報に協力してもらったり、池田に協力してもらったりしている（宇佐見）

A、卒業生を分母にすると就職率は8割、9割弱になるかと（池田）

Q、皆さん業界就職を目的に入学されているんですか？（猿木様）

A、皆さん入学時はそうだが、学ぶ中で業界就職を希望しない学生が出てきます（池田）

■基準5 池田

<課題>

- 業務の効率化ができていますか？
- 年間退学率5%以下を目標に取り組んでいる
- 留学生に対する相談体制の整備を進めているが入学者増加に追いついていない状況
- 課外活動への参加は参加者が少ない現状
- 保護者会の参加者増加はしているが学校が来て欲しいが学学年の保護者が来ていない
- 卒業生への支援

Q、退学理由にはどんなことがあるのですか？（貴治様）

A、ゲームをプレイすることは好きだけど実際に制作となるとつまずいたりがある（納谷）

A、現在は業界就職率が上がっているのでクラスのほとんどの学生ががんばっている。そこについていなくなった学生は疎外感を感じ、退学につながるケースがあるように思います（納谷）

Q、外部相談窓口って設けられていますか？（土江様）

A、紹介はしているんですがまずは学内で対応している（納谷）

A、実は仕事でやっています LINE でそのような窓口を開設したところ多数の相談者が活用している。同じシステムにするとは言わずとも何らかの窓口の開設を考えてもいいかもしれませんね（土江様）

■基準6 宇佐見、納谷より

<課題>

- 設備などの充実に関しては学生の要求に十分応えているとは言えない
- 防災マニュアルの周知徹底を進めていきたい

私自身設備のお仕事をさせていただいたが学生の意見を全て満足にできているとは言い難い（郡山様）

防災マニュアルについてですが、サーバーを多重化するのも効果的かと（谷垣様）

Q、備蓄はしていますか？（猿木様）

A、何日は生活できるだけの備蓄はしています（伊澤）

■基準7 下西より

<課題>

- 入学希望者へ入学後の学生生活がよりイメージできる情報提供が必要
- 入学前の学生への学校説明に誤解を招かないよう説明内容や提供する情報を検討する必要がある

Q、過去に説明内容に誤解を招いたことがありますか？（貴治様）

A、特に大きな問題になったことはないのですが、細かいニュアンス等で取り違いがあるといけないので注意してきたいと思います（下西）

Q、学校見学は自由にできるのですか？（貴治様）

A、事前に連絡を頂きますが可能です（下西）

Q、学園全体でアドミッションポリシーを設定されているんですか？（伊藤様）

A、AO入学を立ち上げて10年程度。立ち上げ時に決めた内容から変化がないため、今の時代とはミスマッチがあるかもしれない。現在アドミッションポリシーの更新に向けて動いている最中（下西）

■基準8

■基準9

に関しては質問なし

■基準10

<課題>

本校の教育資源を活用した社会貢献がまだまだ積極的に実施できていない
学校全体でボランティア活動がまだまだできていない

Q、ボランティア活動の内容はコンピュータを使ったボランティア活動ということですか？（貴治様）

A、専門性を使ったボランティア活動の依頼で多いのは特にデザイン系。ポスターのデザインや婚姻届けのデザインなど様々（三木）

早め早めに地域からもボランティア活動の依頼やご報告をさせていただきたいと思っています（猿木様）

■学生アンケート報告書について

ご覧のとおりのでとらせていただきました。

満足度が高い分野の特徴は、作品制作、個別指導が多いことが特徴です。

ネットワークに関しては良し悪しの結果（納谷）

Q、ネットワークの繋がりにくさの改善方法は？（貴治様）

A、改善途中なので後期はさらに良くなるかと思えます（宇佐見）

A、ネットワーク改善に対して課題が明確なものとそうでないものが実際にあるので、すぐにエンドユーザーである学生さんに改善を感じてもらえるかは現時点ではわからない（郡山様）

長時間になりましたが、今回冒頭にもお伝えしたとおり、フォーマットを一新させていただきました。それにより皆様からの質問がより具体的になったかと思っています。ありがとうございます。またこの場以外でも色々な場所でご意見等いただけたらと思っています（宇佐見）

今回のお話を聞いて学校をより良くしていくためには教職員間のコミュニケーションが必要かと感じています（伊藤様）

以上